



私と紫電改

ひろゆき
吉田 弘之さん



▲自慢のコレクションを背景に説明してくれる吉田さん

▲えひめこども新聞グランプリに応募した新聞

特徴的な機体、見ていて飽きない

吉田弘之さんが紫電改に興味を持ったのは、小学3年生のころ。中泊の祖父母の家に行く途中にある紫電改展示館に立ち寄ったことがきっかけです。紫電改を初めて見たときは「大きいな、こんな飛行機が飛んでいたらカッコいいな」と思った吉田さんは、その年の夏休みの宿題、えひめこども新聞グランプリ（愛媛新聞主催）に紫電改をテーマに応募することに決めました。新聞作成のため、展示館に何度も通ううちに館長の永元さんとも親しくなり、紫電改に関するコレクションも増えていきました。

何度も読み返しているという書籍やお母さんが縫い付けてくれた紫電改のワッペンつき帽子を大事そうに見せてくれた吉田さんに、紫電改の魅力を聞くと「終戦間際に登場した当時、世界のどの戦闘機にも負けないくらい高性能な機体であったこと。零戦に比べて、機体自体が頑丈なつくりになっていて、パイロットたちに好まれていたんじゃないかと想像している」と話します。コレクションの紫電改プラモデルには、機体に黄色い2本のラインが入っています。これは書籍『紫電改343』の主要登場人物である菅野大尉の機体だけにあるもので、敵を誘うためわざと派手な色で描かれているのが特徴で、それが再現されているのがファンにはすごくうれしいと笑顔を見せます。

当初は機体そのものに魅力を感じていた吉田さんでしたが、お母さんと一緒に戦争について調べていくうちに「紫電改は戦争の中で生まれた悲しいもの。ただカッコいいで終わってはいけない。戦争を繰り返してはいけない」と話します。

小学5年生となり、4月からサッカーを始めた吉田さん、サッカー選手を目指して練習を頑張る日々ですが、夏休みにやりたいことを聞くと「展示館に行きたい。展示館のリニューアルも楽しみ」と、紫電改への興味は今も続いています。将来の夢は、サッカーに関する仕事のほか紫電改に関する仕事もしたいと力強く話します。

編集後記

防災学習を取材。私も起震車を体験させてもらいました。震度5までは「おお、揺れるな～」と思いつつ、壁に体重を預けてバシバシ写真を撮っていたのですが、震度7は桁違いでした。とてもカメラなんて持っている状況ではなく、机や手すりにしがみついて耐えるのがやっとでした。こんな揺れが突然襲ってきたら…。もしもの時の備えは万全に。でも「もしも」という言葉はもう適切ではないかもしれない。来るべき日に備えねば。

職場体験の生徒さんには、広報の校閲や原稿作成など、フレッシュなパワーで業務を手伝ってもらっています。毎回新鮮な気持ちになると同時に、私も高校生の時に役場で職場体験させてもらった当時を回想。商工観光課だけで3日間お世話になり、「なーしくん」誕生の年でPRキャラバン同行など、盛りだくさんな3日間だったと振り返りつつ、フレッシュさの欠片がほんのわずかになった今の自分に危機感を抱き、喝を入れ直す準備を進めています。

編集・発行

愛南町役場 総務課 〒798-4196 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2420 番地 電話：(0895)72-1211 FAX：(0895)72-1214



愛南町の世帯数と人口

令和 7 年 8 月 1 日現在

世帯数

9,740世帯

(−6世帯)

人口

18,225人

(−16人)

男

8,644人

(−2人)

女

9,581人

(−14人)

愛南町の高齢化率

47.8%

※ () 内は前月比

●10年前 同月の人口

23,255人